

# TOPPOS

TOKIWA POST

VOL. 32  
WINTER

常磐大学  
大学院 国際学部  
人間科学部 コミュニティ振興学部  
常磐短期大学

常磐大学高等学校  
常磐短期大学 附属幼稚園

[ 2003.12.24 ]

発行 / 学校法人 常磐学園 編集 / 学園報編集室 水戸市見和1丁目430-1 電話 029(232)0007 http://www.tokiwa.ac.jp/

## 常磐大学創立20周年記念式典開催

# 次の10年に向けた新しいステップ。

常磐大学創立20周年記念式典がホテルレイクビュー水戸で10月1日に挙行政され、関係者など約300人が、個性豊かで地域社会に開かれた大学づくりを推進する本学の発展を心から祝った。この式典により本学は、これまでの実績を踏まえた上でこれからの10年に向かう新しいスタートを切ることになった。



盛大に挙行政された常磐大学創立20周年記念式典

ベストセラー「声に出して読みたい日本語」の著者としても有名な、齋藤孝先生の講演(上) 本学吹奏楽団及び学生有志の演奏、「コーラスによる校歌・学友歌の編曲披露(下)」



**常** 磐大学創立二十周年記念式典が平成十五年十月一日、ホテルレイクビュー水戸で挙行政された。参加した関係者は約三百人。一九八三年の創立から現在までの沿革を振り返り、より一層の地域への貢献などを誓った。式典で諸澤英道理事長は「常磐学園は短期大学開設時から四年制大学の設立が念願であったが、大学設立に当たっては、日本初の学部である人間科学部コミュニケーション学科の開設が実現できた。その後、国際学部、コミュニケーション振興学部など国内でも例を見ない大学改革に積極的に取り組む『日本初』が常磐大学の代名詞と言われるようになった。そして近年は博物館学博物館の開設、そしてまた本日は国際被害者学研究所の開所も執り行われ、地域に開かれた大学としてチャレンジの厳しさを感じている」と、二十年という歳月の中で大きく発展してきた本学の歴史を語った。

そしてさらに「地域でどのように評価されるかが大学の発展には欠かせない。これからの十年に向けた、新たな一歩を踏み出したい」と語り、名実ともに地域に開かれた大学として、教職員や学生たちが一丸となって邁進する決意を表明した。

次いで、来賓祝辞 本学園の永年勤続表彰が行われたほか、本学で長い間教鞭をとって来た福原真知子さんが、一億円の学術振興助成金を諸澤理事長に贈呈。本学の被害者学と心理臨床の学術振興に役立てられる助成金の贈呈に、会場は感謝の拍手で大いに沸いた。また、同窓会からは記念品として天幕二十張が贈呈され、目録を受け取った大堀哲学長は「大学の様々な行事に有効に活用させていただきます」と、感謝の言葉を述べた。

創立以来、時代の声に応え、地域に貢献する人材の育成という実学教育に力を入れてきた本学は、ここから新しい十年に向けてスタートを切った。

その後、齋藤純一郎指揮者により校歌・学友歌編曲を披露し引き続き祝賀会が開催された。主催者代表として大堀哲学長が「地域に根差した大学として、独自性や特色づくりに取り組み、学生の未来をサポートできる新しい常磐大学を創造したい」と挨拶した。

「念講演では、齋藤孝・明治大学文学部教授が「生きる力を育てる学力」というテーマで講演。「スポーツに技があるように、学ぶことにも技が存在する。会話の内容を反復して他の人に伝える訓練をすれば正確に記憶に残る。声を出すことは、脳に刺激を与える。こうして勉強を『技法』することで、より効果的な学習が可能になる」と語り、現在、一方通行で進められがちな授業から、双方向性に富んだ教育として伝達訓練の採用を示唆。講演の途中では、来場者たちがその効果を実際に体験するワークショップ形式のリレー朗読なども取り入れられ、大きな反響を呼んでいた。

## シリーズ32 アオキ

## 冬でも青々としたヨーロッパで人気の植物



アオキは関東地方以西から沖縄まで、広く分布する常緑低木。冬になっても葉も枝も濃い緑色をしているため、「青木(アオキ)」という名称が付けられたといわれています。

このアオキは雌雄異株(雄と雌が分かれている植物)で、冬になると雌株には、小指の先ほどの赤い果実が熟します。もともとアオキは日本特産の植物ですが、この美しい真紅の果実が好まれ園芸用にとヨーロッパがヨーロッパに持ち帰り広めたとされています。

しかし、シボルグが持ち帰ったのは残念ながら雄株ばかり。日本ではどこでも手に入ると言っても、鎖国中では簡単に入手するわけにもいかず、鎖国が解かれると多くのプラントハンターたちが、雌株を求めて来日したという逸話も残されています。

日陰でもよく育ち耐寒性が強いので、日本より寒いスイスなどでは人気が高く、愛好家も多いそうです。日本特産の植物が世界で活躍しているというのは、ちょっと嬉しい話ですね。本学では幼稚園のトトロの森で見ることができるので、遠いヨーロッパの国を想像しながら美しい小さな果実を観賞してみてください。

常磐の四季

# 被害者のための正義は日本においてどう実現されるべきか

## 常磐大学国際被害者学研究所開設記念シンポジウム

常磐大学国際被害者学研究所開設記念シンポジウムが2003年10月2日に開催された。テーマは「被害者のための正義は日本においてどう実現されるべきか」。海外の被害者学の第一人者や国内の犯罪被害者たちが被害者を巡る現状について語り、意見を交わした。

### 基調講演



岡村 勲氏  
(おかむら・いさお)

全国犯罪被害者の会代表幹事、弁護士  
1959年弁護士。第一東京弁護士会会長、日本弁護士連合会副会長、法政審議会委員などを歴任。高知学芸高校修学旅行生上海列車事故補償交渉で日本側弁護士団長を務めた。2000年全国犯罪被害者の会を設立し、犯罪被害者の権利と被害回復制度の実現に向けて活動中。

パネルディスカッションに先駆けて、岡村勲弁護士による基調講演が行われた。この講演で岡村氏は「私は弁護士になって三十八年目に犯罪被害者の遺族になりました。それまで加害者の立場から法廷で争う仕事をやってきたのですが、自分が被害者になり傍聴席で

裁判を見るようになって、いかに日本の司法制度が被害者を苦しめるものであるかということに気がつきました」と述べ、被害者には明らかにされない裁判記録や一九九〇年の最高裁判所で出された「捜査や公訴提起は公の秩序維持のために行うもので、被害者のた

めにやっているのではない」という判決に言及。この「被害者は捜査や判決の『証拠』や『道具』であってそれ以上のもではない」という司法の立場に怒りと危機感を覚え、被害者の権利と被害を回復する制度の確立を目的に「全国犯罪被害者の会」を設立するに至ったという。  
今後の取り組みとして岡村氏は、ドイツやフランスのように被害者が当事者として法廷に参加できる制度の確立や被害者支援団体の積極的な活動、また法学教育の場における考え方の転換、そして被害者と被害者支援のネットワークづくりの重要性などを訴えた。

被害者・遺族らに関する学際的な研究と教育を行う『国際被害者学研究所』を開設したことを機に、本学は十月二日、『被害者のための正義は日本においてどう実現されるべきか』と題したシンポジウムを開催した。  
パネルディスカッションのコーディネーターは、全国犯罪被害者の会と全国被害者ネットワークなどで顧問を務める諸澤英道理事長、国際被害者学研究所専任教授のゲルト・キルヒホッフ氏のほか、カナダ・オタワ大学教授のアービン・ワラー氏、全米被害者援助機構事務局長のマリン・ヤング氏、弁護士で兵庫被害者支援センター理事の垣添誠雄氏、山口県光市母子殺人事件遺族の本村洋氏、埼玉県桶川ストーカー殺人事件遺族の猪野憲一・京子氏の七人を招き、被害者を巡る海外の事情、国内の問題、そして会場との対話を通して今後の方向性を探った。



マリーン・ヤング氏  
(Marlene Young)

アメリカ在住。全米被害者援助機構事務局長  
オレゴン州で郡保安官事務所研究主任。全米被害者援助機構設立理事会に加わり、会長も歴任。パトロール警官等向けの被害者志向の40時間の訓練課程、被害者の擁護者、カウンセラー、プログラムマネージャー向けの課程を開発する。世界被害者学会会長。



アービン・ワラー氏  
(Irvin Waller)

カナダ在住。オタワ大学犯罪学教授  
1985年国連被害者人権宣言の採択に貢献。世界中の政府に対し、犯罪の減少と被害者の権利について助言を行っている。元モントリオール国際犯罪防止センター事務局長。カナダ、イギリス、南アフリカ、アメリカで犯罪防止政策見直しに参画。世界被害者学会前々会長。



諸澤 英道氏  
(もろさわ・ひでみち)

学校法人常磐学園理事長、常磐大学教授  
慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。常磐大学副学長、常磐大学学長などを歴任。専門は被害者学、犯罪学、刑事法学、刑事政策学、少年法制。日本被害者学会理事、全国犯罪被害者の会顧問、全国被害者支援ネットワーク顧問、(社)いばらき被害者支援センター顧問。

### 被害者学の国際的な視野に立った学際的な教育および研究を目的とした「国際被害者学研究所」が十月一日、本学キャンパス内に開設された。

開所式には関係者ら約五十人が招かれ、諸澤英道理事長は「九十年代になって被害者の保護と支援について関心が高まった。本学でも被害者学研究に活発に取り組むようになり、アジアの研究の中枢として期待されるようになった。多くの研究者に有効活用してもらい、世界の被害者学の発展に貢献していきたい」と挨拶を述べた。

この研究所は、殺人、詐欺などの犯罪をはじめ、虐待、災害、交通事故など、さまざまな被害について、被害者学の研究と被害者支援に関する情報の中枢を担うことを目的に、国内外の大学、研究・政府機関などと連携するもの。被害者学に関する図書や論文、映像資料などを収蔵した情報資料室の運営、国際研究紀要の発行、会議やシンポジウムの開催などが活動の柱となる。

所長に就任したのは国際学部教授で全米被害者援助機構の創設者の一人、ジョン・ドゥーシッチ氏。世界被害者学会前会長のゲルト・キルヒホッフ氏を専任教授に招き、七人の研究者が各国の被害者支援などを調査。メンバーの富田信穂教授は、事件直後から被害者に精神的ケアなどをサービスする米国のボランティア団体の活動を、諸澤英道教授は、被害者が裁判に参加できる権利などを研究する。

諸澤教授は「将来的に、日本でも法整備を提言することを目標とする。水戸から被害者支援の風を吹かせたい」と話していた。



開所式でテープカットをする諸澤理事長(写真中央)、大堀学長(同右)、ドゥーシッチ所長(同左)



研究所には被害者学に関する資料が収蔵されている

### Check! 「被害者学」とは…

被害者学は、さまざまな事件や事故、さらに災害などの「被害者」を対象とする、既存の学問領域を超えた新しい研究分野です。そしてこれらの研究は「被害者」の権利確立や支援活動、制度の改革など具体的な活動を伴う「実学」であるとも言えます。また、4月から開設される本学現代社会科学科では、犯罪被害者や被害者支援について学べます。



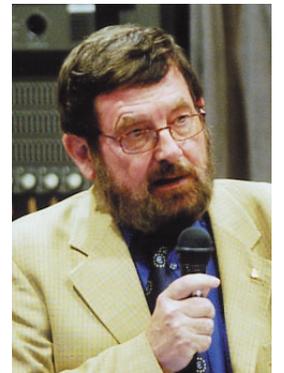
パネルディスカッション

比べるとまだまだ足りなくて、やらなければならぬことが非常に多い」と発言したことを受け、ワラー氏が「日本では六人に一人が犯罪被害者になっている実態があるが、その六〇％が警察に通報していない事実がある」として、一九八五年に採択された「国連被害者人権宣言」を紹介し、警察署や裁判所がどのような手続きをとっているのかという情報の提供や、報復を受けない安全保障を日本の司法制度の中にも取り入れるべきだと語った。また、E U、イギリス、フランスなど、被害者の権利確立に積極的な行動を示している国を例に挙げ、「改革のためにはリ

ダーシップと先駆的なプロジェクトを一つの礎石として拡大していくことが重要。被害者の心の苦しみを分かち合うことができる人たちが、政治面での変化に向けて働きかけていかなければならない」と日本が進むべき方向を示した。

キルヒホッフ氏は、被害者の権利を認めているドイツの法律を紹介した上で、「被害者に本当に必要なのは政治的な影響であると考え、政治的活動も始めた。そしてこの活動によってドイツの被害者補償法ができた」と語り、「一九

犯罪被害者の権利を確立するために。



七六年にできた被害者支援団体「白い環」は、今や六万五千人の会員を持ち、資金が潤沢で、被害者が弁護士サービスを無料で受けられる支援なども行われている」とドイツの現状を報告した。ヤング氏は一九九六年にアメリカの司法省が発表した「現場からの新たな方向性 二十一世紀の被害者の権利とサービス」という文章を取り上げ、被害者の権利の監査プログラム、裁判官を対象とした検証制度などを解説。さらに、被害者のためのボランティアあるいは専門家の法律サービスとして、



**本村 洋氏**  
(もとむら・ひろし)  
山口県光市母子殺人事件のご遺族  
1976年生まれ。「全国犯罪被害者の会」幹事、会社員。1999年4月に当時23歳の妻と生後11カ月の長女を18歳の少年に殺害された。2000年1月に「犯罪被害者の会」立ち上げに参画。講演や執筆活動を通し犯罪被害者の権利を求め活動中。主な著書は「天国からのラブレター」。

**垣添 誠雄氏**  
(かきぞえ・もとあ)  
兵庫被害者支援センター理事、弁護士  
1972年弁護士開業。日本弁護士連合会民事介入暴力対策委員会副委員長、日本弁護士連合会犯罪被害者支援委員会副委員長を歴任。堀江事件、高松事件、附属池田小学校児童殺傷事件などを支援してきた。

**ゲルト・フェルディナンド・キルヒホッフ氏**  
(Gerd F. Kirchhoff)  
常盤大学国際被害者学研究所教授  
マービン・ウォルフガング教授のもと犯罪学を学ぶ。ノーダーラインランド応用科学大学社会科学部教授として刑事法、犯罪学、被害者学を担当。ノースカロライナ大学シャーロット校刑事司法学部訪問研究員。世界被害者学会事務局長を長年務める。世界被害者学会前会長。

**猪野 憲一・京子氏**  
(いの・けんいち、きょうこ)  
桶川ストーカー殺人事件のご遺族  
憲一氏は殺害直後に起こった報道被害、警察の怠慢・不法行為、犯罪被害者の声に関する講演を時に合わせて実施。現在、埼玉県警を相手に国家賠償裁判を係争中。京子氏は殺害直後に全国犯罪被害者の会「あすの会」に入り、現在幹事として被害者の権利確立のため活動している。

実現するため、法律にしていかなければならない。法律は自分たちでつくる、正義は自分たちで実現するという意思を持って一緒に手を携えて被害者運動をしていきたい」と語った。

桶川ストーカー殺人事件のご遺族、猪野憲一氏は、助けを求めても捜査を行わず、さらに告訴状も改ざんしていたという事実を挙げ、「県警本部長が詩織の前で涙してくれたのに、いざ裁判に入ったら拳を返すが如く、危険性はなかった、ストーカー行為を受けていたことと殺人には因果関係はないと

法科大学院に導入される「被害者の権利コース」や、研修・教育プログラムへのボランティア弁護士の参加など積極的な動きを紹介した。また、今年の夏にNOVA(全米被害者援助機構)で開始された全国被害者援助認定プログラムに触れた後、アメリカにおける「危機応答チーム」の拡大の動きに言及、「このチームは災害地域に派遣して被害者援助に当たるもの。同時多発テロでは真価を問われ教訓を得た。今後、危機応答チームは国際的なプロジェクトになるだろう。高い目標を設定して、効果的に被害者のために何ができるかを考えていきたい」と語った。

山口県光市母子殺人事件のご遺族、本村氏は、法律、慣習、倫理観の三つの正義を挙げ、この中で「倫理観」の正義は被害者が抱えている問題だ、と発言。「被害者、加害者、双方の倫理観をすべて吐き出し、その中で国民的なコンセンサスがとれる被害者の倫理観を正義と認めていただき、その正義を

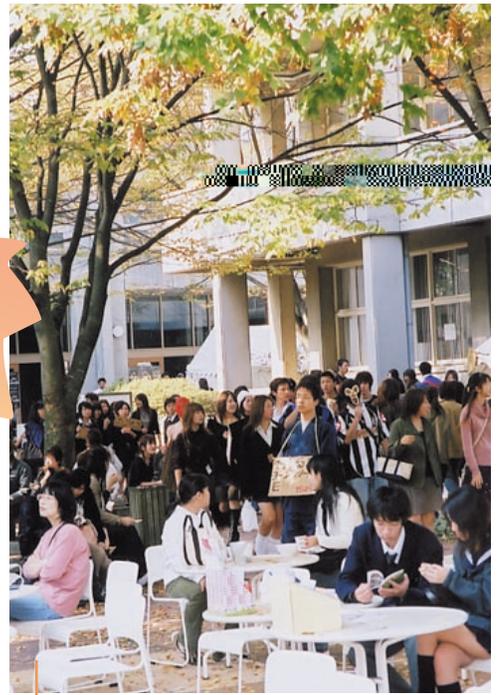
シンポジウムには壇上以外にも多数のご遺族が出席。東名高速飲酒事故で二人の娘を失い、署名運動で危険運転致死傷罪創設のきっかけをつかったご遺族夫妻は「遺族以外に法改正の声が出ないのが致命的」、東京地下鉄サリン事件で夫を亡くしたご遺族も「何の罪もない被害者を守ることができなかった国が賠償や被害者の権利に関して責任を持つべきだ」と主張した。また少年による暴行事件で長男を亡くしたご遺族のように「七年前は少年事件だというだけで真相を教えてもらえず本当に悲しかったが、地域の人が助けられた。専門家の充実ももちろんだが、地域のつながりも大切」という意見もあった。

言っている。それが正義だろうか」と警察の体質改善を強く求めた。また、猪野京子氏は、被害者が参加できない裁判への不信感を訴え「被害者が参加することによって真実が分かるのに、今の裁判では真実がなく、犯人の更生につながるか疑問」と語った。

弁護士である垣添氏は、民間の支援団体が中心になって被害者の権利を獲得していく過程と日本の現状を照らし合わせ「日本は、被害者、ご遺族が泣きながら立ち上がって、孤立無縁の中で闘っている。わが国にも民間の犯罪被害者支援団体が三十以上できたが、刑事裁判に被害者が参加する運動に対して支援団体は何ら寄与していない」とした上で、「弁護士自身が被害者支援にしっかりと取り組まなければ、二次被害の温床になってしまう」と、支援団体の一つでもある弁護士会に苦言を呈した。そして今後は、しっかりとした民間支援機関が弁護士と被害者、ご遺族との間のコーディネートを行うことが必要だと提言し、「わが国における犯罪被害者の支援、権利獲得運動は、無権利状態から権利を獲得するという第二ステージに入った。これは国民共通の課題であり、運動を前進させるため、メディアを含めてしっかりと世論を構築していただきたい」と締めくくった。

# ときわ祭 2003

弾 ~ Heart Thrill ~



秋晴れの空の下、たくさんの方が来場しました!!

木々が彩づきはじめる秋、学園には祭りの空気が流れる。今年は11月1日(土)&2日(日)に、年に一度の学園祭を開催!会場は誰もが楽しめるイベント盛りだくさんの2日間でした。

短期大学委員長  
経営情報学科  
田崎 美希さん



ご協力ありがとうございました!

大学委員長  
人間科学部人間関係学科  
塩籠 浩司さん



**弾** む気持ち、そしてワクワクする気持ちを楽しんでほしいというのが、「二〇〇三年度」ときわ祭」のキマツ「コト」の意味。「ドキドキしてる?」というサブタイトルが付くように、日常の繰り返しの中で忘れてしまった「弾」を心の中に取り戻そうと各サークルやゼミがアイデアにあふれた企画で奮闘し、キャンパス内がわき返った二日間だった。

一日目は曇り空で少々肌寒かったものの、二日目には見事なまでの秋晴れ。暖かな陽気も手伝って、多くの来場者にも恵まれた。

今年の学園祭での一番人気とも言えるイベントが、初日の「Panic Crime (パニクル)コンサート」。確かなダンステクニックで魅せるステージは今年の「ときわ祭」のテーマに相応しく力強いエネルギーに溢れていた。男前のルックスと、それに似合わないコミカルなキャラ。ダンスと歌。コント。そしてトークで会場を熱気で包んだ。

また、自治会執行部・学友会が主催した講演会には、柔道家の古賀稔彦氏を迎えた。古賀氏は数々の世界選手権やオリンピックに出場、バルセロナ五輪では金メダリストに輝くという経歴の持ち主。会場ではバルセロナ五輪のVTRが流され、現役時代の古賀氏の試合を観戦。そのバルセロナでは怪我

を押して試合に出場したにもかかわらず、金メダルという快挙を成し遂げた。「初めからの天才はいない。あきらめずに自分の目標をしっかりと持って頑張れば夢は叶う」という信条を、自らの体験から語ってもらった。

**人** 気のアクション・ヒーローも、今回の目玉イベントのひとつ。グラウンドに行われた「アバレンジャーショー」はたくさんの子もたちが元気な声援を送ったり、歌に合わせて踊ったりと楽しそうな雰囲気包まれた。ショーを見守る中には親子連れや子どもたちだけでなく、学生だけのグループが見学する姿も。親しみのあるヒーローショーは幅広い年齢層に受けた大盛況の企画となった。

そのほか、野外ステージや各教室ではそれぞれのサークルやゼミが活躍。これまで地道に行ってきた練習や研究の成果の発表の場となっていた。もちろん、恒例の屋台も多数参加。中には昼時に行列になったところもあった。

ときわ祭実行委員会・大学委員長を務めた人間科学部人間関係学科三年の塩籠浩司さんからは「学園祭は年に一回しかなく、また一般の方々にも見てもらえる貴重な場。皆が一年間温めた企画を悔いの残らないように精いっぱい頑張ってもらえたら嬉しいですよ」とのメッセージがあった。「忙しく生活するこの時代に、皆さんが弱気にならないでほしいです。学園祭は元気に楽しく過ごせる時になってほしいと思います」と話すのは、短期大学委員長の田崎美希さん。

二人のコメントにあるように、「もっと気分を弾ませよう!」と盛り上がった今年の学園祭。この「弾」を胸に、これからのキャンパスでの日常生活にもウキウキと弾む生活になるかも、と思えた二日間であった。



お待ちしております~



アバレンジャー参上!



頑張れば夢は叶う...!



おいしいラーメンはいかが!?



入試対策講座を熱心に聞き入る高校生たち

## Open Campus! 9.27 Sat. キャンパスをまるごと体験!

また、推薦・AO入試志望者を対象とした「面接・小論文対策」や、一般入試・センター試験利用入試志望者を対象とした「一般入試対策(英語)・秋からの受験攻略法」などの入試対策講座も開講され、参加した高校生たちは、まさに真剣そのもの。熱心にメモをとる姿も数多く見受けられ、受験シーズンの到来を控えた高校生たちの熱気が、会場にあふれていた。



快晴に恵まれたオープンキャンパス当日

Circle Flash!

通り空中で一回転をする技の事で、「サンロク」と読むそうだ。主な活動はゲレンデで滑ること。茨城には屋外のゲレンデがないため、シーズンに入る前あたりから綿密なスケージュリングをし、県外まで出かけているという。福島県にあるグランデコや猫魔、アルツ磐梯



初心者も大歓迎。白銀のゲレンデでスノボをしよう！今回紹介するのは、「360」という名前のスノーボードサークル。学内で唯一のウィンタースポーツをメインとしたサークルとして、寒さが増してきたこれからの季節が、まさに本格的活動の始動と言えるだろう。ちなみに、このサークル名はスノーボードの技に由来する。その名の

Circle サークル紹介 Flash!

第15回 スノーボードサークル 360°(さぶろく)



グランデコで活動するメンバー

などで活動することが多い。部長である人間科学部心理学専攻二年の梶山新悟さんは、スノーボード歴七年。「なんと言ってもスノーボードは飛ぶのが楽しい。スキーよりも爽快感があるんです。トリックが成功したときの達成感もたまりませんね」と、その魅力を語っていた。怪我が多いというイメージがあるスノーボードが、初心者でも出来るのだろうか？「事前に準備体操やストレッチは必ずするようにしています。身体をほぐしてから始めているし、自分のレベル以上の無理なジャンプをしなれば危険は全然ありません」と話すのは、副部長の心理学専攻二年・深谷昭夫さん。現在、十一人の部員には全くの初心者もいるが、経験者が基本的な指導を行っているのだ。誰でも参加できるというのだ。「始めてみたいけど、最初から板やウェアを揃えてしまうのは大変という人は、まずはゲレンデでレンタルしても、試しに滑ってみて、楽しさを知ってもらいたいですね」と、部長の梶山さん。今年も長野での合宿を予定するなど、活動にも力が入る。スノーボードを始めてみたい人、そしてもっと技術を高めたい人と、幅広い層が楽しむことが出来るサークルだ。

茨城の良さを再認識しました！

「ミス・グリーンふるさと」の選考があったのは去年の夏。特に、ミスになりたいうわげじゃなく、単純に選挙風景を見てみたいというのが応募した理由です。だから、自分が選ばれたときには、本当にビックリしました。でも、ちょっと面白そうじゃないですか。なかなか、こういうことができる機会もないです。だから、やるからには楽しんじゃえって感じでしたな笑。



このミス・グリーンふるさととは、県北西部地域十八市町村で構成する、財団法人グリーンふるさと振興機構の活動をお手伝いするスタッフ。さまざまなイベントなどで地域を紹介し、PRすることが仕事の内容です。もちろんそのためには、いろいろな知識が必要です。私は、あまり県北西部に詳しくなかったのですが、パンフレットなどかなり勉強しました。おかげで、かなり茨城県に詳しくなりましたよ笑。

きらり人 KIRARIBITO 人間科学部 コミュニケーション学科・4年 篠塚 友里江 ミス・グリーンふるさと



笑顔が印象的な篠塚さん(写真右)

さまざまな地域の方々や、市町村長さんたちとの出会いは、今後の人生の中で必ず役に立つと思います。今まで知らなかった茨城県の歴史や、見たことのなかった美しい自然を教えられ、茨城県は素敵なおとこだったんだって本当に実感しましたね。ミスの仕事も、残り三カ月ですが、コミュニケーション学科の最後の勉強だと思って頑張ります！

●短期大学卒業生管理栄養士合格者十七名 国民の健康を担う「食」の専門家たち。健康に対する関心は、現在、全国的な広がりを見せている。そんな中、生活習慣病の増加などで、特に注目を集めているのが食生活の改善だ。そして、その「食」に関するエキスパートとして社会的ニーズが高まっているのが、「栄養士」「管理栄養士」。活躍するフィールドは、病院や高齢者介護施設はもちろん、保育園や一般企業まで広がっている。



食品学の実験を行う千葉先生と学生たち

「管理栄養士の資格は、医学的知識も要求される病院でとくに必要と言えらるでしょう。例えば、高血圧や糖尿病などに対する栄養指導は、治療行為と密接につながっているわけですから」短期大学生生活科学科・食物栄養専攻の千葉茂教授は、医師と管理栄養士が対等に話せる環境が必要だと語る。では、栄養士と管理栄養士とはどこに違いがあるのだろうか。

栄養士の資格を取得することは、非常に重要だと言ったことができます。管理栄養士の資格を取得するために、まず本短期大学で栄養士の資格を取得することが必要だ。そして、三年の実務経験を経て、管理栄養士の国家試験に合格しなければならぬ。「食物栄養専攻では、管理栄養士の国家試験にも十分に対応できるカリキュラムが組まれています。そして、学生の全員が、栄養士の資格を取得して卒業。もちろん、卒業後の管理栄養士試験に対する支援も行われています」短期大学では、本学生涯学習センターの講座として「管理栄養士国家試験準備講座」を開講し、毎年、百人以上の卒業生たちが集まっている。そして合格者は、例年、二十名前後という好成绩で、この数は全国一三六校の短期大学の中でも常に上位に位置している。今後さらに高まる健康志向の流れの中で、本短期大学出身の栄養士・管理栄養士の活躍に大いに期待したい。

諸澤正道 前・常磐学園理事長ご逝去を悼む。



平成四年に本学園理事長に就任して以来、学園発展に尽力された諸澤正道先生が、平成十五年十一月二十二日に亡くなられました。享年八十一歳でした。諸澤正道先生は昭和二十三年に東京帝国大学を卒業後、文部省へ入省。初等中等教育局教科書課長、大臣官房人事課長、体育局長、大臣官房長、初等中等局長などを歴任し、昭和五十五年からは文部事務次官として文部行政の円滑な遂行に多大なご尽力をされ、その後、昭和五十七年十月からは十年の歳月にわたり、国立科学博物館長として、博物館行政にも多大なる貢献をされました。本学においては昭和三十年に評議員に就任。以降同五十八年には理事、平成四年からは理事長として学園の管理運営に当たるとともに、短期大学学長に就任。平成十四年からは学長に就任し、常磐大学生涯学習センターの開設や常磐大学博物館学博物館の開設など、私学振興ならびに教育研究の発展にご尽力されました。諸澤正道先生の教育文化向上に対する貢献は、多くの人々が知るところであり、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

テストの点数がどうであったかは、きつと誰もが気になることだろう。しかし、その測定方法に問題があるとしたら？ 解決すべき課題と方法について、大友先生にお話を伺った。

国際学部 大友賢二教授に聞く — 英語教育評価論・言語テスト —

# 評価に潜む課題を究明して 英語能力の向上を図る

## なぜ言語能力測定の研究を

日本は急速に国際化が進んでいると言われている。しかし日本人は、本当に国際社会で活躍していると言えるだろうか。日本人は、なぜ、英語を十分に使いこなすことができないのだろうか。「日本語という言語の影響など、その理由はたくさんあります。日本には外国の文化を吸収するために英語を学ぶという大きな目的があったわけですから、教育者としての外国語教育の時代が長かったのです。だから読むことや訳すことに重点を置いてきたのです。しかし、もうその時代は終わって、自分からものを言わなければなら



日本語テスト学会での基調講演者 韓国・ソウル国立大学のKwon教授夫妻と大友先生。

ない時代です。英語は、わが国の存立に関わる国際コミュニケーションの道具となっているんです。」

大友先生は、以前、財団法人・英語教育協議会(ELEC)、神奈川大学、筑波大学で英語科教員の養成、再教育などを主にやってきました。

「英語が読めるだけではなく、聞いて分かる、しかも口で言える人材を育成しようということでした。そこで、ELECでは、Charles C. Fries博士のオーラル・アプローチという指導理念を普及させようと考えました。Edwin O. Reischauer や John D. Rockettler Sr.などの援助も受け、中・高の英語の先生方の再教育を実施していました。しかし、本当にこの指導法でいいのかという疑問が生じてきたのです。その効果を知るためには生徒たちの学力を調べる必要があります。問題は、どうやって英語能力を正確に測定するかということでした。」

そこで大友先生が着手したのが言語テストの研究であつたわけだ。

## 言語テスト得点の不思議

「今から、三十八年前、一九六五六年のことですから、当時はまだ言語テストの科学はほとんど研究されていなかったですね。そこで、当時その研究の最先端を行くRobert Lado博

おおも けんじ  
 常盤大学国際学部教授、筑波大学名誉教授、日本語テスト学会(JLTA)会長、国際言語テスト学会(ILTA)、大学英語教育学会(JACET)等会員、専門は英語教育評価論・言語テスト。著書「項目応答理論入門」言語テストデータの新しい分析法、「テストで言語能力は測れるか」ほか多数。



士のおられた米国のGeorgetown大学へ行つたわけだ。」

学習者の順番を決めるためというよりも、指導の効果測定し、学習者の軌道修正のためにテストを行うことの意味は大きいという。そのためでもやはりテストを行うことになる。しかし、これまでのテストには、さまざまな問題が潜んでいるという。

「現在もごく普通に行われている点数のつけ方は、百問中、三十問でできれば三十点、九〇問でできれば九〇点ですね。でも、これがおかしいんですね。例えば三十点しか取れなかった場合、学生の能力が低いから三十点なのか、問題が難しいから三十点なのか分からないんです。つまり、受験者の能力テスト項目の困難度、正答率の確率などを明確に分離できなかったわけだ。」

「また、百点、零点という得点の示し方にも問題があるんですね。百点以上できる能力を持つていても百点しか取れないし、零点以下の能力の受験者も零点になってしまうからです。ですから、百点や零点近辺のモノサシは真つすべでなく歪んでしまつたんです。そこで、真つすべな、しかも、無限大

の表現を持つモノサシをつくる必要があるんですね。」

## 適切な評価で英語学習の軌道修正を

これまでのテスト理論では、解決できなかったことがたくさんある。そこで、開発されたのが「項目応答理論」といわれる新しいテスト理論だ。これは、TOEFLやTOEICのデータ分析にも長い間用いられているものと言つた。

「たとえば、これまでよりも英語学力は本当に低下しているのか、という問いに対する決定的な答えを見いだすのは難しいですね。科学的に実証するために、この項目応答理論を用いて共通尺度を設定することが必要です。項目応答理論を用いた共通尺度を使えば、テスト問題が違つ、受験者も違つという過去のデータをいっても、長年に及ぶ能力の推移を求め、それを比較することが可能なのです。茨城県立並木高等学校の青田智里先生の研究『第十五回「英検」研究助成報告』二〇〇三は、そのひとつの一例です。」

二〇〇四年度より開設される「英米語学科」では、言語能力の測定と評価を基盤として、英語学習のための効果的な軌道修正を行い、英語能力の向上を図りたいというのが大友先生の狙い。たとえば、二十名という習熟度別クラス編成、海外留学生制度の充実、コンピュータを用いたコーラボの活用、中学校・高等学校の英語教諭免許状の取得、児童英語指導者認定書の発行などを着実に準備していると言つた。

こうした様々な目標を達成させるには新しい測定と評価を基盤として、学生の英語学習の適切な軌道修正を行うことがもっとも重要である、と大友先生は語っていた。

**編集後記**  
 気がつけば二〇〇三年も終わろうとしている。振り返れば、社会的にも、本学園としてもさまざまな出来事が起きた一年であった。社会的には何と言っても三月に勃発したイラク戦争が最も大きな話題だろう。現在もイラクの人的復旧支援の在り方をめぐって、多くの議論が交さ

寮の間取り。備え付け家具で、引っ越しの負担もほとんどない。

◎二〇〇四年春、新学生寮完成  
 キャンパスライフをより快適に楽しめる「常盤大学・新学生寮」が、平成十六年春に完成する。この学生寮には、快適・安心・安全をテーマに、パブリックスペースから個室にいたるまで、行き届いた設備が整えられている。まずセキュリティ対策として、三重の入室チェック。入室までの通路は寮のエントランス、各フロア入り口、各個室と三箇所がガードされており、すべてのチェックポイントは一枚のカードで開錠する。フロアは男女別になっており、もちろん各フロアの入室チェックも行われる。室内の設備は、冷蔵庫はもとより、家具も備え付けでユニットバス、ミニキッチンのほか各フロアにはコインランドリーも設置されている。また、光ケーブルの「Bフレット」に対応しているため、契約すれば高速・低料金でのインターネット利用が可能だ。さらに、帰寮後、個室玄関にあるカードスイッチにカードキーを差し込むと、照明などの電気が通電。外出時にカードを抜けば電源がオフになり、消忘れの防止にもなる。近くには食堂棟もあり、健康を考えたバランスのよい食事も用意されている。

### 豊かな大学生活は、毎日の快適な暮らしから

このように最新設備を備えた新学生寮は、豊かな学生生活をバックアップするものとして、現在大きく注目されている施設だ。

着々と建設が進む新学生寮

\* TOPOSに対する御意見は kouhou@tokiwa.ac.jp. までお寄せ下さい。  
 \* 古紙の利用・70%の再生紙を使用しています。